

大熊町復興支援員

常世田 隆(トコヨダ タカシ)

(株)サンアメニティ linkる大熊

2024年3月27日

自己紹介

- ✓昭和34年 千葉県銚子市生まれ(64歳)
- ✓平成27年、およそ30年間務めた外資企業を早期退職
- ✓同年9月、福島県に単身移住(移住生活9年目)
- ✓東町エンガワ商店 マネージャー(南相馬市:3年間)
- ✓そうま食べる通信 執筆・編集(創刊から20号)
- ✓動画投稿チャンネル開設(企画・制作150本以上)
- ✓浜の駅松川浦 店長(相馬市:3年間=準備期間含む)
- ✓大熊町復興支援員(令和5年8月より)
- ✓KFB福島放送「シェア！」県民リポーター(活動中)
- ✓福島民友新聞「みんなの随想」寄稿者(執筆中)



活動内容

@大熊町交流ゾーン



- とにかく大熊町を賑やかにすること
 - 大熊町との接点をつくるきっかけ
 - 交流促進の場
 - 交流人口拡大
- これまでに実施したこと
 - KFBふるさとシェアで動画放映
 - ✓ linkる大熊 Carstay
 - ✓ おおくま駅伝
 - ✓ おおくま宣伝チーム(本日:3/27)
 - 親子みそづくり教室
 - 運動スタジオPR動画/YouTube放映
- 現在あたたため中の案件
 - おおくま朝市(産地直送)
 - 町民のためのバス旅行企画
 - 鉄塔視察ツアー
 - 子どもたちによる歌とダンスの音楽劇

所属は(株)サンアメニティですが、同時に大熊町第三次復興計画の『6つの柱』を指針として活動しています。

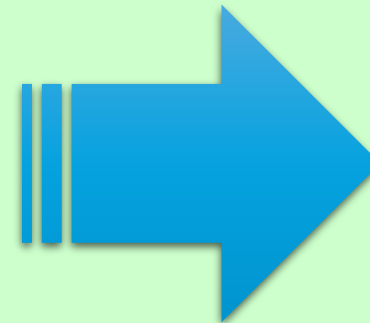
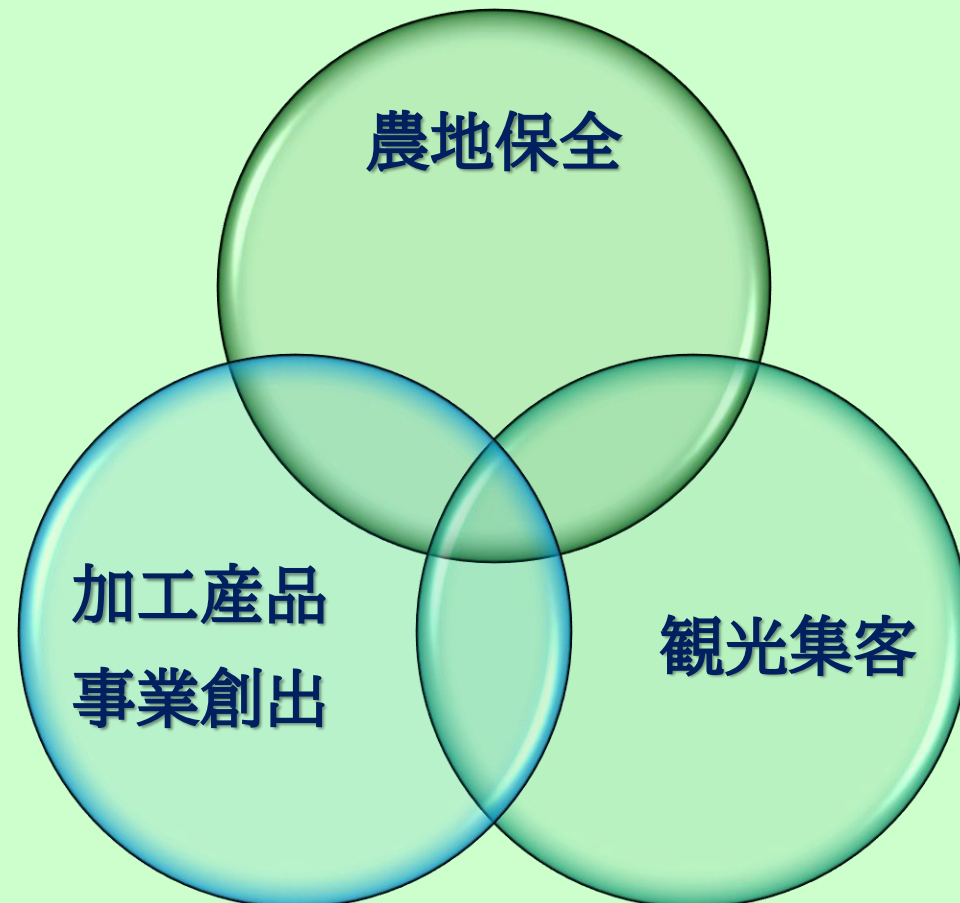
- 町民が安全・安心に暮らせるまちづくり(インフラ)
- みんなが分け隔てなく交流し新たなつながりを生み出す(暮らし)
- スポーツに関わる機会を広げ心身ともに健康な生活を送る(生涯学習)
- 農業再開と新たな産業基盤の構築(産業づくり)
- 地域との関わり／いきがい／社会参加(まちとの主体的な関わり)
- 持続可能な地域づくり(SDG'S)

今後、本気で取り組みたい「まちの観光地化」



まちの至る所に「お花畑」を！

常磐自動車道の両側にはお花畑が広がり、JR常磐線の車窓からも見渡す限り花・花・花。休耕地を様々な花卉類でうずめ、まちの各所をお花畑にして多くの観光客を取り込みます。花卉類をベースに加工品を製造することで、まちの新しい特産品も生まれることでしょう。



帰町と営農再開への
意欲高揚のきっかけ

見ごろの「お花畑」は頻繁に報道される

高原の風に揺れるコスモス 猪苗代ハーブ園で見頃 福島県猪苗代町

2023/09/19 09:18



コスモスが福島県猪苗代町の猪苗代ハーブ園で見頃を迎えた。ピンクや白の花が高原の風に揺れている。連休最終日の18日は多くの来場者でにぎわい、黄金色に染まった田園地帯を背に咲き誇る花に見入っていた。

猪苗代湖や磐梯山を見渡す斜面150アールに100万本が植えられている。現在は「センセーション」と名付けられた品種が咲き、今週末に最盛期となる見通し。



ヤマユリ見頃、400本が自生 福島県田村市船引町「薪の里ながとろ」

2023/07/24 17:50



福島県田村市船引町の「薪(まき)の里ながとろ」で、ヤマユリが見頃を迎えている。華麗で大きな花を咲かせ、甘い香りを放っている。

園内に400本ほど自生している。8月上旬ごろまで楽しめるという。アジサイも咲いており、2つの花が同時に楽しめる。

薪の里は、郡山市の佐藤満雄さんが実家周辺の山林を切り開いて造った。下草を刈るなどして環境保全活動に努めている。

場所は田村市船引町長外路字西ノ久保で、市瀬川運動場に隣接している。



見頃を迎えたヤマユリ

ソバの花が見頃に 福島県南会津町高杖原

2023/08/25 21:00



福島県南会津町高杖原(たかつえはら)でソバの花が見頃を迎えている。南会津町館岩観光センターによると、9月上旬まで楽しめる。

標高約1000メートルの会津高原たかつえスキー場近くにあるソバ畑では、会津高原たていわ農産が栽培しているソバの白い花が、爽やかな風に揺れている。訪れた人は山あいの美しい風景を写真に収めている。



白い花が一面に咲き誇る会津高原たかつえスキー場近くのソバ畑

ナツズイセン見頃迎える 福島県小野町「アミゼの森」

2023/08/15 21:00



福島県小野町塩庭のアミゼ敷地にある「アミゼの森」にナツズイセンが花を咲かせ、見頃を迎えている。

ヒガンバナの仲間、葉はスイセンに似ている。ラッパ状に開いた淡いピンクの花がかれんに咲いている。社長の根本保雄さんが、下草を刈ったりするなどして保全活動に努めている。

8月中旬ごろまでは咲いているという。お盆期間中、店舗は休みだが、自由に観賞することができる。



淡いピンクの花を咲かせているナツズイセン

水稻主体の農業施策

- 稲作は非常に手間がかかる
- 日本人の米離れが進んでいる
- 出稼ぎ時代も水稻主体であった

花卉栽培への体質改善

- 手間の要らない花が多々ある
- 様々な加工品を生産できる
- 貴重な観光資源となる

ご清聴ありがとうございました

